



発行 株式会社 昭和土木設計
岩手県矢巾町流通センター南4丁目1-23

Tel 019-638-6834 Fax 019-638-6389

～ 岩手県の土木遺産を巡って ～

■ はじめに

2007年3月末現在、岩手県内に土木学会選奨土木遺産が3つ(下記の3橋)あります。今回のインフォでは、これらの土木遺産について、わかる範囲でまとめてみました。

各土木遺産の諸元

	達曽部川橋梁	宮守川橋梁	青岩橋
所在地	遠野市宮守町	遠野市宮守町	二戸市～三戸町
路線	JR 釜石線	JR 釜石線	国道4号*
交差	達曽部川	宮守川	馬淵川
完成年	1915年 (1948年改修)	1948年	1935年
形式	RCアーチ橋	RCアーチ橋	単純プレートガーダー
橋長	98.5m	107.3m	189m
径間	20m×5連	9.8m×2連 19.2m×4連	21m×9連
土木遺産認定	2002年	2002年	2006年

*:一般の地図では国道ではないが、「いわてデジタルマップ」上で4号となっていることを参照

■ 達曽部川橋梁

この橋、通称「岩根橋」の歴史は、大正4年11月23日に「岩手軽便鉄道」の岩根橋駅～宮守駅間が開通した時に始まる。当時は鋼桁橋で、現在のようなアーチ橋になったのは昭和18年。この路線が国鉄「釜石線」に引き継がれて、ゲージ(レール間隔)拡幅と、仙人峠をこえて釜石までの延伸工事による(これまで、仙人峠駅から陸中大橋駅の間5.8kmは、徒歩や籠で移動していた)。

工事は軽便鉄道の運行を止めずに行なわれ、軽便鉄道の橋脚をRCアーチで包み、アーチ背に砂利を充填した後、鋼桁を抜き取ったとある。コンクリートの硬化に対する影響を検討して、徐行運転がなされた。



写真-1 達曽部川橋梁

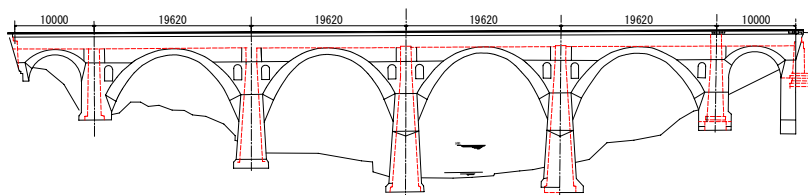


図-1 達曽部川橋梁改修図面
(文献①の図面をトレスしたもの、赤線は軽便鉄道時の構造)

■ 宮守川橋梁

株式会社 昭和土木設計の紹介

弊社は、道路・河川・橋梁等の計画・設計、GIS、ITソリューション等の業務を行っております。
”なんでもインフォ”のバックナンバーについては<http://www.showacd.co.jp>をご覧ください。

この橋は、道の駅「みやもり」の脇にあるアーチ橋で、通称「めがね橋」。こちらの歴史は、達曽部川橋梁がアーチ橋になった昭和18年に始まる。それまでの軽便鉄道は、めがね橋の脇に見える石組の橋脚(下写真の左側に見える柱)上にかかっていた鋼桁橋を通っていた。釜石線としての工事に伴い、鋼桁橋の横に新しいRCアーチ橋が架けられ、現在の姿となった。



写真-2 宮守川橋梁

■ 青岩橋

この橋は昭和10年に完成した道路橋で、岩手県と青森県の県境で馬淵川を越えている。当時は国道4号線だったが、今の国道本線は脇の青岩大橋を通り、青岩橋の管理は二戸市と三戸町に移っている。

この橋の特徴は、トレスル橋脚(骨組み構造をした橋脚、トレスル高は約13m)にある。鉄道橋で使われる例が多く余部鉄橋が有名ですが、道路橋として現存するのは青岩橋のみとのこと。

遠目で見ると主構造に大きな損傷は見えませんが、地覆・防護柵の劣化が進んでおり(写真右下)、16m下の馬淵川を覗き込むと怖い感じがします。2008年7月現在、4トンの荷重制限され、通行止めの話もあり、歴史的建造物であること考えると複雑な心境になります。



写真-3 青岩橋

■ おわりに

これらの土木遺産を見ると、その時々で最善を尽くした様々な工夫が感じられます。持続可能な発展や性能設計が求められている現在、先人を見習い、安易な妥協に流されずに、より良い解を求めるよう姿勢を正していかななくては、と感じています。

- 参考文献: ①岩手県の近代化遺産: 岩手県教育委員会、H9.3
②いわて未来への遺産、近代化遺構を歩く(明治～昭和初期): 岩手日報社、H15.9
③いわての鉄道百年: 大内豊、1992.2
④土木学会誌(見どころ土木遺産): 2007.6 ほか

配布者

作成者: コンサルタント事業部